

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572710424		
法人名	有限会社 Slow and Slow		
事業所名	悠々庵花ごよみ		
所在地	秋田県横手市大雄字西館合75		
自己評価作成日	令和2年9月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和2年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム周辺は四季折々の風景を楽しめる環境にあります。「ゆっくり」「一緒に」「楽しむ」を運営理念に掲げ、利用者のペースに合わせた支援を行なっています。職員は日々の業務の中で利用者と一緒に家事作業が行えるよう、常に環境を整えています。また、職員の介護力アップのため、内部研修や外部研修に参加し、資格取得に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの外部評価は年2回の内部評価をまとめる形で尚且つ年1回定期的に行われており、常に自事業所を客観視し、利用者・家族、職員にとってよりよい運営が行われるようにと努力を重ねている様子が伝わってきた。訪問時には、職場環境の整備として職員の休憩室と、居宅介護支援事業所の事務所が新しく建設されており、職員も大事にされている印象を受けた。最初に開設したホームは元々、民家であったものを改築したという事であり、家庭的な雰囲気を残し、理念である「ゆっくり」「一緒に」「楽しむ」が実現されるよう配慮されている。利用者対応では一人一人の希望を受け止め、出来る限り実現していきたいという思いを強く感じ取ることが出来た。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「ゆっくり」「一緒に」「楽しむ」を全職員が共有し、意識しながら活動しています。	玄関壁面に掲示されている理念は、開設当初からの代表者の思いを表しているものであり、全職員に浸透し日ごろのケアの中で意識されていることが聞き取りにより確認された。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域の行事に参加したり、事業所の行事に地域のボランティアの人たちが来所したりしていますが、今年度は交流を図るのが厳しい状況です。	今年度は、具体的な交流機会の確保が難しい状況であるが、開設当初より地域の方々や小学校との交流などで地域との関係が築き上げられている。今後も様々な状況変化が想定されるが、その時々のできることを考えていきたいとの思いが聞き取りから確認された。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	GHは地域の社会資源の一つであることを、機会ある毎に地域の人々に伝えてます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見等は、ホームの活動に活かすようにしているが、今年度は運営推進会議の開催はまだ出来ていません。	今年度は開催できていないが、昨年は会議の中で家族から災害時が不安だという話があり、避難場所の確認をして家族へも知らせるなど、意見を生かした対応をしていることが書面より確認された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回程、横手市の相談員の受け入れを行ない、利用者の日々の生活状況を伝えているが、今年度は相談員の訪問が難しい状況です。	横手市の相談員の訪問後は、その様子が「介護相談員便り」の発行という形で、他の事業所にも配布され、日常的に外部の目が行き届き協力関係が築けるよう取り組まれていることが書面より確認された。今年度は訪問を見合わせている状況。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を定期的に開催するとともに、管理者を中心に社内研修を行ない、拘束を行わないケアに取り組んでいます。	社内研修により、拘束をしないケアについて学び、意識的に取り組んでいる。現在拘束の対象となっている方はいない。やむを得ず行う際には、できるだけ早く解除できるよう委員会を中心に、全職員で意見を持ち寄り、検討していることが書面及び聞き取りから確認された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、委員会を定期的開催するとともに、管理者を中心に社内研修を行ない、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修を受講し、必要とするときは活用できるよう、支援していきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書等で、分かりやすい言葉で説明し、一つひとつ意向を確認しながら同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設けていないが、面会時や電話等で、利用者家族に要望や意見を述べて頂いています。	家族には電話で近況を報告し、家族が話しやすくなるような会話を心掛け、要望などを聞いている。写真をふんだんに取り入れた通信を送り、ホームでの様子が分かるような工夫をしていることも書面より確認された。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、職員が意見や提案を出しやすい環境を作っています。又、定期的に管理者会議を開催し、職員の意見や提案を反映するようにしています。	各棟ごとに月一回のカンファレンスを開いた後、両党の管理者と代表、総括で管理者会議を開催し、職員意見を広く取り入れられるようにしていることが会議録より確認された。会議を経なくても普段から意見が言いやすい雰囲気であることも聞き取りより確認された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績、勤務状況に則した介護職員処遇改善加算と特定加算の実施。又、資格取得を奨励するとともに、資格取得に必要な経費の援助、勤務シフトの調整などを行なっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会は少ない状況だが、管理者を中心に内部研修を定期的に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のGH情報交換会は今年度開催できていないが、ネットワークの活用はできています。又、定期的に地域ケア会議に参加し他事業所との連携を図っています。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム見学を通して全体の雰囲気を感じてもらえるようにし、安心感を持てるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学や、事前面接を通して要望等を聞き、適切な助言ができるようにしています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者から生活の知恵を学び、一緒に料理をしたり、花や野菜の水やりをしたり、協力し合いながら生活をしています。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に「花ごよみ便り」で日頃の暮らしぶりを伝え、本人の状態に変化が起きた場合には、速やかに報告を行ない、家族と相談しながら支援するようにしています。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や病院、自宅への外出など、家族の協力を得ながら行っています。しかし今年度は難しい状況です。	今は感染症のこともあり、なかなか外出できないが、馴染みの訪問理容の継続や携帯電話を用い家族とつなげるなど、この状況下で出来ることに取り組んでいる事が聞き取りより確認された。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの個性を理解し、共通の話題や作業などを通して、利用者同士のコミュニケーションがうまくできるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後であっても、相談があったり、支援が必要な場合は継続して支援を行なっています。		
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、本人の希望や意向をくみ取るようにしています。	日々の関わりの中で思いや意向を受け止めるように努めている。具体的な例では、入居前に利用していたデイサービスに継続して通っている方もいる。表出が難しい方には、リハビリテーションなどで体を動かす際にコミュニケーションを取り、表情や仕草などを見て思いをくみ取れるようにしている事が聞き取りから確認された。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話や家族から情報をいただき、これまでの暮らし方について把握するようにしています。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕のミーティングや介護記録を通して、一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態を把握するようにしています。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞き、職員が意見を出し合いながら計画書を作成しています。	家族には電話や手紙で、どんな風に生活してもらいたいかを確認している。職員1人で2人の利用者を担当し、本人の気持ちをきめ細かく把握し、計画作成担当者と共にモニタリングを行い、他職員と共有し、ケアにつなげていることが書面から確認された	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や介護日誌、連絡ノートを活用しながら職員間で情報を共有し、計画書の見直しを行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校の行事や地域のお祭りに参加したり、楽しむ体験を支援していますが、今年度は地域行事等が中止になったり難しい状況です。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意を得たうえで、協力医療機関より、月1回の訪問診療と週1回の訪問看護があり、適切な医療を受けられる体制をとっています。	全員が訪問診療と、訪問看護を利用している。その他の専門医を受診する際は事業所で受診援助を行い適切な医療が受けられるよう支援している事が聞き取りより確認された。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療との連携により、訪問看護センターと24時間相談が受けられる体制をとっています。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携により、24時間体制で緊急時の対応ができ、入退院時の場合は速やかに情報交換ができる体制をとっています。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に、本人家族の考えを聞くとともに、重度化した場合は事業所の指針を説明し、同意をいただいています。	看取りの指針を整備し、これまでに2名の看取りを経験している。早い段階で家族の考えを聞き、重度化した場合に家族が希望すれば、協力医から十分説明をして頂き対応する。職員は研修を重ねて看取りに臨んでいることが聞き取りより確認された。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを全職員が目を通せるようにしており、定期的実践訓練を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(夜間想定含む)の火災・避難訓練を行なっています。 緊急連絡網に地域の方々も含めており、緊急時には協力をいただく体制をとっています。	火災・避難訓練は消防署の立会いの下おこなっており、アドバイスももらっている。地域の方々にも協力してもらう体制が出来ている。ハザードマップで浸水域となっていることは確認しているが、避難場所が遠く、具体的な訓練までには至っていない。	水害時の避難訓練を行い、避難にかかる時間や必要な応援体制など具体的な問題点を明らかにしながら対応を検討していただくことを期待する。
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように、本人に合わせた言葉使い、タイミングを見ながらの声かけ、声のトーンや表現方法に気を付けています。	声掛けにも注意を払い、一人一人を尊重した対応を心掛けていることが聞き取りより確認された。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の希望や訴えに傾聴し、日常行動を理解しながら、本人が自己決定しやすい場面をつくっています。又、コミュニケーションが取りにくい場合は、出来るだけ本人が望むであろうことを推測し、考えながら、支援を行なっています。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて支援を行なっています。表現の難しい方は、様子や行動から希望を察し対応しています。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヵ月毎に理容・美容を行ない希望のヘアスタイルに合わせたおしゃれができるようにしています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物や畑で採れた野菜など、職員と利用者で楽しみながら調理しています。 また、利用者と職員と一緒に食事の準備や後片付けを行っています。	換気などに注意しながらともに食卓を囲み、楽しく食事できるようにしている。職員と利用者が一緒に調理などを行っていることが確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の身体状態や食習慣に配慮しながら食事を提供し、一人ひとりの食べる量や水分の摂取量を記録し状況を把握できるようにしています。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを毎食後行なっています。利用者の口腔状態によっては、協力歯科医院に相談し訪問治療、指導を受けています。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた誘導を行ない、トイレで排泄できるよう支援しています。	少しでも自立に向くよう、チェック表を用い、トイレで排泄できるよう取り組んでいる。自立度が低下した方もあきらめずにおむつにしない方法を考えて、対応していることが書面と聞き取りにより確認された。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックや食事量・水分量のチェックを行なうとともに食材に気を付けています。自然排便が困難な方は必要に応じて下剤の処方をお願いしています。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前は、バイタルチェックを行ない健康状態を確認しています。 職員の都合ではなく、本人の希望やタイミングに合わせて行なっています。	本人の希望や、皮膚状態など状況に応じ入浴の回数などを考えている。車いすの方も職員2人介助で入浴していることが聞き取りと書面により確認された。また、洗髪料などは個々の馴染みのものがそれぞれに使われている事が見て取れた。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間気持ちよく眠れるよう、日中の活動や作業などを、本人に合わせて行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している個々の薬の内容は、個人ファイルに綴じ全職員が目を通せるようにしています。 飲み忘れや誤薬がないよう、薬に関わる職員がその都度確認を行っています。薬の変更や臨時薬については、申し送りや連絡ノートで確実に伝達するようにしています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事や作業、レクリエーションなどを通して個々の役割を感じていただく場面を作るようにしています。 また、誕生会を毎回みんなで行ない楽しみを共有しています。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年度は外出が難しい状況ですが、身体状態を見ながら散歩や買い物支援を行なっています。	今年度は難しいが、普段は車で買い物に出かけたり、散歩したりしている。家族と一緒に外出もしている。状況が許すようになればまた再開する方向であることが聞き取りより確認された。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使うことについては、家族と相談しながら支援しています。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族やなじみの方からの電話など職員が見守りしながら対応しています。親族、知人から絵葉書など届いた際は職員が読み聞かせています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間については、明るく清潔を心がけ、動線にはよけいな物を置かないようにしています。室温、湿度については毎日チェックをしています。また、事業所内はいつも季節の花を生けています。	共用の空間には季節感のある花を生け花の師範の方に生けていただくなど、居心地のよくなる工夫をしている。玄関や廊下トイレなども清潔に保たれており、利用者が大切にされているという空気が流れている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置き、気の合う利用者同士で会話ができたり、リビングに本や雑誌を置いて読書できるようにしています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた布団やタンス等の持ち込みや、家族の写真、好きな歌手の写真などを飾り、居心地良く過ごせる環境を作るようにしています。	居室には利用者が家から持ってきたものや、制作したものなどが置かれ、一人一人の居場所として馴染み深くしつらえられていることが感じ取られた。また、混乱を招かないように、あまりものを置かない居室もあり、一人一人の状況によって環境のあり方が考えられている事が確認された。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内は、整理整頓を心がけ安全の確保に努めています。 トイレの表示や、居室入口には本人の承諾を得ただけ名前を表示しています。		